

看護学雑誌 第49巻 総目次

1985年1-12月

(表示は、題名：筆者名、号数、ページ数)

特集

救急医療と看護の対応——患者・家族とのコミュニケーションを中心に

チーム医療としての救急医療——プライマリ・ケアからクリティカル・ケアまで：中江純夫，1, 27.

救急患者の情報収集と記録：小澤美恵子，1, 33.

初療時の看護展開——看護婦によるトリアージの実践：
藤枝久子・西本和江・人見喜代子・陣川チヅ子・竹内博美，1, 43.

外傷患者へのアプローチ——身体機能の一部を永久的に失ってしまった2事例を通して看護援助を考える：小山由美子・長尾壽子・平出ひろの・渡辺裕子・田口吉子，1, 48.

熱傷患者へのアプローチ——ICU症候群および気道熱傷を伴う2事例の経験から：佐伯陽子，1, 55.

飲酒者，薬物中毒者，自殺者への対応：中村恵子・山田洋子，1, 62.

危機的状況にある患者家族への対応を考える：星野光子，1, 69.

救急の‘かきくけこ’：河内文雄，1, 74.

癌治療に伴う副作用との闘い

癌との闘いは副作用との闘い——抗癌剤の副作用と思われる激しい症状を呈した患者の看護：入舟紀子・安部幸子・大町和子・大野康子，2, 147.

癌治療に伴う口内炎の治療：水野明夫，2, 154.

癌の化学療法中，治療困難な口内炎に悩む患者の看護：石橋利恵・青木正美・江口とみ子，2, 160.

癌治療副作用としての口内炎を持つ患者への援助：高橋さつ子・金子好子・堀浩子・向田良子，2, 165.

放射線治療における口内炎患者の疼痛緩和にハチミツを使用して：千葉美幸・井戸畑久美子・小林長子・佐藤ヨシ・村松洋子，2, 171.

抗癌剤の副作用に苦しむ小児の看護——心室中隔欠損および大動脈閉鎖不全を持つ患児の急性骨髄性白血病寛解導入の事例から：渡辺園子・竹ノ内伊津美・米沢礼子・四元和代，2, 178.

シスプラチン投与を受ける患者へのより良い看護を目指して——嘔気・嘔吐を軽減するための要点と食事指導：高橋幸子・沢村のり子・船木裕子・梅原ひとみ・増永よし子・横山貞枝，2, 185.

臨床3年目の迷いをどう切り拓くか

看護婦にとっての臨床3年目——自己の看護観の確立を：小木富子，3, 267.

院内研修を通してみた臨床3年目看護婦：大田すみ子，3, 273.

自己実現の指針としての体験学習——看護実践における自己成長のために：浅川明子，3, 279.

自主研修＝〈看護セミナー〉3年間の活動を振り返って：東京都立府中病院看護セミナー，3, 285.

〈看護セミナー〉から得たもの：金仁淑・大沢知子・高橋桃子，3, 290.

慢性透析者の自立に向けて

血液浄化治療の現状と展望：酒井糾・熊野和雄・飯高喜久雄・高良聡子，4, 387.

看護チームの連携による透析者への生活指導：池井みや子・小野田明子・上田代恵子・玉淵恵，4, 392.

合併症を有する透析患者の看護——看護的視点で透析患者の合併症をとらえる：青木芳子・稲田清美・中井ゆふ・藤村淳子・細野容子，4, 402.

長期透析者の問題点と看護：河野南雄・山口美佐子，4, 410.

慢性血液透析患者の運動療法：張光哲，4, 416.

障害を持つ透析患者の援助——ソーシャルワークの現場から：遠藤三保子，4, 424.

CAPD療法を受ける子供たちへの援助：野地金子・坪井政子・中山勝子・松井美由紀・武和子・五十嵐嘸子，4, 430.

疾病としてのアルコール依存症

慢性疾患としてのアルコール依存症：黒滝淳一，5, 507.

内科医としてアルコール依存症をどう治療するか：高木敏・重田洋介・永田茂之・丸山勝也，5, 512.

患者の持つ力に期待する——集団生活に適応困難であったアルコール依存症患者への働きかけ：泉トモ子・佐々木久美子・小野勝三・数きくい・深井文子・仲間君子，5, 518.

患者を支え，患者の持っている力を引き出す：森田和子・大江まさ子・永友信子・加藤フミ子，5, 525.

回復はある——アルコール中毒という病氣：村田由夫，5, 530.

どうにもならなかったアルコール中毒者の私：M.N.，5, 537.

アルコール依存症者へのリハビリテーション施設における看護：村木節子，5, 541.

申し送り・再考——看護ケアの充実のために

‘申し送り’を看護ケアにどう生かすか：川島みどり，6, 627.

申し送りの時間短縮をめざして：森谷チヨノ・高橋ひろみ・熊谷節世・高橋真理子・進藤喜枝，6, 632.
申し送り基準作成における成果と今後の問題点：鶴美穂子・中島敦子・井上優子，6, 637.
当院の看護婦は〈申し送り〉をどうみているか：中平百合子・土屋京子・荒木良子・渡辺さとみ・小畑圭子・桜井啓子・中村麗子，6, 643.
St. Jude Hospital での申し送り改善の工夫：小林明子，6, 648.

排尿自立への援助

神経因性膀胱患者の排尿リハビリテーション：山田薫・玉屋美由紀，7, 747.
頸髄・脊髄損傷患者の排尿自立への援助——その看護過程を明らかにする：田中靖代，7, 759.
排尿障害のある患者の退院に向けての取り組み：篠原信子・佐野千恵子・富永福己・高橋美恵子・黒羽広美，7, 765.
脳卒中患者の排尿自立に向けて：宮嶋文子，7, 771.
排尿動作に困難のあるリウマチ患者への援助：大平郁子，7, 778.

心臓病のリハビリテーション——看護の果たすべき役割を探る

心臓病のリハビリテーションとは何か：五十嵐正男，8, 867.
急性心筋梗塞患者のリハビリテーション看護——リハビリテーションが遅延した事例を通して：藤村千鶴・原年江・内之倉恵知子・久井くるみ・中島和子・谷口淳子・森英記・前島一郎・川名正敏，8, 873.
心疾患術後患者の早期リハビリテーション看護：森田孝子，8, 881.
虚血性心疾患患者の外來でのリハビリテーション看護：鈴木紫水香・新保きみ子・高田まり子・濱本紘，8, 888.
狭心症患者のリハビリテーションと看護上の問題：藤井八重子・蓮井加代子・大田政代・堀田菜穂子・下本幸江，8, 895.
疾患を十分に理解できない心筋梗塞患者へのアプローチ：野元恵美子・大塚トキ子，8, 901.

患者の求める退院指導のあり方

退院指導のための情報収集の再考：貝塚みどり・粟生田友子・長谷川真美，9, 987.
要入院疾患患者の退院に伴う治療と生活の不安に関する分析——退院後のフォローアップ調査から：尾崎新・大場富代子・萩谷香代子・山崎純子，9, 993.
事例を通して退院指導のあり方を考える：林昌美・早川順子，9, 1001.
退院指導パンフレットの作成と指導の実際：多久文代・山崎明美・宮島由美・山崎えみ子，9, 1008.
患者の自立を支えた退院指導——地域での継続看護との連携を通して：秋山智・長岡順子・沼倉加代子・藤城幸恵・美浦恵子・後藤陽子，9, 1015.
脳卒中患者の家族に対する退院指導の効果——再発防止

と ADL 維持への影響について：松元イソ子・田畑さよ子・小野知子・井上仁・川平和美・田中信行，9, 1022.
患者の退院への不安を和らげる退院指導のために——退院のしおり・退院指導の手引きの作成：小池牧子，9, 1026.

在宅医療の新たな広がり——江東区における在宅チーム医療の展開を中心に

江東区における訪問看護指導事業の取り組みとその現状：岩瀬広美，10, 1107.
地域医療の担い手として——開業医の立場から：若月透，10, 1113.
中間施設についての一提案——開業医の立場から：三浦輝雄，10, 1118.
介護環境の整備を中心に在宅でのリハビリテーションを考える：望月彬也，10, 1121.
〈実践レポート〉在宅難病患者の訪問看護を通して看護婦の役割を考える：林篤子，10, 1129.
〈実践レポート〉地域看護の難しさと醍醐味——地域看護を通して看護を考える：井本邦子，10, 1133.
〈実践レポート〉訪問看護から学んだ援助の基本姿勢：野島あけみ，10, 1139.
〈実践レポート〉地域に根ざした包括的ケアと取り組む——保健・医療・福祉の統合を目指す小松病院での試み：北村愛子，10, 1142.
〈実践レポート〉オープンシステム病院における看護婦の役割と地域の連携：有田令子・宮崎寛子，10, 1149.

非言語的コミュニケーション——言葉が使えない患者とのコミュニケーション

患者のサインをどうとらえ、どう対応していくか：田村ヨテ・夏井佐代子・百田和子・小野寺綾子，11, 1227.
人と人とは必ず通じ合える——耳を目にかえ、心のキャンバスにデッサンを：江副信子，11, 1232.
患者のわずかな表出をどう読み取っていくか——神経難病の患者とのかかわりを通して：木村和子・田中征子・岩城好江，11, 1236.
口語法を中心とした非言語的コミュニケーション——緊急入院で気管内挿管をした事例から：窪田忍・増田咲子・岡本美由紀・鈴木さゆり・梅崎文子，11, 1242.
運動性失語症を来した患者とのコミュニケーション：合田季子・木山典子，11, 1247.
分裂病者の緘黙をどのように理解するか：松崎澄子，11, 1252.
患者の欲求に見合ったコミュニケーション——脳卒中患者の事例を通して考える：佐々木耕子・久保静江，11, 1257.

日常ケアを見直そう〔総集編〕

〈実践の看護〉再出発に向けて——〈日常ケアを見直そう〉を振り返る：川島みどり，12, 1346.
患者の配置——不自由な中での自由を目指して：宮沢君子，12, 1348.
看護判断——考える看護婦になりたい：中川英子，12,

1354.

退院時の援助——看護婦の主体性が生み出す実効ある退院指導：牛込三和子，12，1361.

婦長——こんな婦長がいてくれたら：小野寺綾子，12，1367.

家族への援助——家族を見る柔軟な目：関文子，12，1371.

特別論稿

末期上顎癌患者とのかかわりから臨床医として考えさせられたこと：形浦昭克，6，664.

特別対談／人を見るころ，見つめるころ〔1〕——看護とルポルタージュを通して：向井承子・都留伸子，7，784.

緊急レポート／干ばつに苦しみ，そしてわずかな雨が命取りになる——エチオピアの干ばつ地帯での医療・看護活動：工藤芙美子，7，789.

特別対談／人を見るころ，見つめるころ〔2〕——看護とルポルタージュを通して：都留伸子・向井承子，8，906.

ベッドサイドの看護

末期患者とのかかわり——激しい痛みを伴うパンコースト型肺癌の事例を通して：石橋多佳子・杉京子・西井光代・古瀬清行，3，295.

大理石症患者の看護——左大腿骨頸部骨折を起こした事例から：原田弘美・小桜恵美子・宮田智栄子・椿谷佳代・甲斐友恵・時本玉枝，3，300.

家族を通じて振り返った末期患者の看護：石山尚子・橋本末子・村松佳代子・佐々木有子・松岩奈美代・瀧口牧子，5，547.

信頼関係作りを軸とした患者とのかかわり：広渡容子，5，551.

片麻痺のある老人患者の排泄自立への援助：鶴澤珍衣・矢部弘子・山田真理・中沢えり子・田中ヨシエ，6，652.

拒否，攻撃のある患者とのかかわりを通して精神科看護を考える：内貴逸子・里中ヨオ子，6，657.

独り善がりの看護に気付いた一事例から——交流分析を用いた看護場面の反省：高砂綾子・藤牧栄子，8，911.

学生の広場

慢性腎不全患者の看護——死に至った患者の看護を通して学んだこと：牧良子，2，195.

精神科・小児病棟連係のレクリエーション活動：藤明朱美・朝比奈真弥・三浦香織，3，306.

「精神科・小児病棟連係のレクリエーション活動」について——小児病棟の側から：駒松仁子，3，313.

成人看護臨床実習を通して学んだこと：藤村多美江，8，916.

昔語りによる治療の試み——民話による痴呆老人への語りかけ：岩崎和枝・小笠原聡子・上村百合・半田小百合・藤原広花・片岡万里，10，1156.

18歳のALL患者との交流から学んだ看護の心：桑畑久美子，12，1376.

術後指導での行き違いから知ったコミュニケーションの

難しさ：見越誠，12，1381.

プロセスレコードで学んだより良いコミュニケーションのあり方：海野好美，12，1386.

看護婦の働きかけに拒否的な患者とのかかわり：木葉実千子，12，1391.

研究と報告

ICUにおける摂取食品のカロリーおよび水分量計算法——ポケットコンピュータを利用して：榊原守・森一法・馬場叔子・榎本三枝子・鈴木さよ子・永山真由美・中野とも子，3，303.

訪問看護1年の経験を顧みて——武蔵野赤十字病院での取り組みと今後の課題：有馬千代子，9，1032.

内科病室における院内感染について——緑膿菌と空中落下菌の分析調査：飯嶋美代子，11，1263.

脳卒中患者の家族指導のあり方を考える——指導前後の家族の介護知識を調査して：堤下秀子・池上幸美・竹丸ユキミ・小野知子，11，1268.

気管挿管された患者の口腔内ケア：遠矢幸枝・金沢美恵子・岡本和子，12，1396.

ホスピスからのレポート——

続・死にゆく人々のケア：柏木哲夫

淀川キリスト教病院ホスピスの現状，1，82.

ホスピスの日々，2，202.

人生も総決算，3，322.

患者の権利，4，442.

生命の質—Quality of Life，5，562.

家族のケア，6，680.

病名の告知，7，800.

ホスピス・ケアと信仰——魂のケア，8，922.

家庭での死，9，1042.

家族のきずなと死別の悲しみ，10，1162.

ターミナル・ケアとユーモア，11，1282.

これからのホスピスの展望，12，1400.

訪問看護——私たちの実践レポート

訪問看護にみる問題ケースを考える：村中由美子，1，78.

リハビリテーション病棟看護婦による訪問看護：本村節子・島崎文子・宮崎公美・出口八重子，2，190.

豪雪地域における訪問診療の試み：高橋ルミ子・緑川咲子・後藤優子，3，316.

自治体訪問看護婦としての活動：佐藤加代子，4，437.

地域保健システムの確立を目指して——長崎県琴海町役場における寝たきり老人の訪問看護：山田喜美子・橋口久仁子・宮田ゆう子，5，555.

会員制システムによる訪問看護活動：紅林みつ子，6，675.

在宅難病患者をめぐる地域ぐるみの援助——医療と福祉の谷間を埋めたち密な連携と人の手のぬくもり：乾死乃生，7，794.

癌末期患者の訪問看護を通して在宅でのターミナル・ケアの可能性を考える：柳原清子，9，1037.

癌末期患者の在宅ケア——事例からの学びとこれからの課題：西村かおる，11，1273.

癌宣告, 1, 106.
 地獄から天国へ, 2, 226.
 地獄へ舞い戻る, 3, 346.
 See you again!, 4, 466.
 手術, そしてその後, 5, 586.
 口からものが食べられる, 6, 706.
 苦難, ふたたび, 7, 826.
 復活へ向けて, 8, 946.
 これを幸せと言わずして何と言えよう, 9, 1066.
 病室での人間模様, 10, 1186.
 支えられるということ, 11, 1306.
 明日へ向かって, 12, 1426.

痛みの臨床：中島美知子

痛みの心理学[3]——痛みの精神力動, 1, 89.
 痛みの治療理論, 2, 209.
 薬物療法[1]——痛みの原因と薬物の選択, 3, 329.
 薬物療法[2]——鎮痛剤投与方法の原則, 4, 449.
 麻薬性鎮痛薬の作用機序, 5, 569.
 麻薬性鎮痛薬の使い方[1]——非経口的投与, 6, 689.
 麻薬性鎮痛薬の使い方[2]——経口的投与方法, 7, 809.
 麻薬性鎮痛薬の使い方[3]——アゴニストとアンタゴニスト, 8, 929.
 非麻薬性鎮痛薬の使い方[1]——アスピリン, 9, 1049.
 非麻薬性鎮痛薬の使い方[2]——非ステロイド性抗炎症薬, 10, 1169.
 内科医からみた神経ブロック——痛みの伝導路の遮断, 11, 1289.
 痛みの意味の発見, 12, 1409.

病む人々へのカウンセリング：白井幸子

カウンセリングって何?, 2, 221.
 病む人へのカウンセリングとは, 3, 341.
 カウンセラーが出会う最初の問題, 4, 461.
 カウンセリングの進め方[1]——あいさつの次にすることは, 5, 581.
 カウンセリングの進め方[2]——目標が明確になったら, 6, 701.
 カウンセリングの進め方[3]——クライアントのタイプによってアプローチの仕方を考える, 7, 821.
 カウンセリングの進め方[4]——病む人々を取り囲む環境と背景を見よう, 8, 941.
 カウンセリングの進め方[5]——治療の望めない人と病気になる人についてどう話し合うか, 9, 1061.
 カウンセリングの進め方[6]——実際の場面を通してカウンセリングを学ぶ, 10, 1181.
 カウンセラーに求められる基本的態度[1]——クライアントにあるがままに受けとめること, 11, 1301.
 カウンセラーに求められる基本的態度[2]——共感する心をもって接すること, 12, 1421.

ぼけとは何か, 5, 573.
 ぼけの症状[1], 6, 693.
 ぼけの症状[2], 7, 813.
 ぼけの症状[3], 8, 933.
 ぼけの症状[4], 9, 1053.
 ぼけの症状[5], 10, 1173.
 ぼけの症状[6], 11, 1293.
 ぼけの症状[7], 12, 1413.

変革の中の医療——21世紀をめざして：岩崎栄

地域医療, 4, 457.
 老人保健法, 5, 577.
 プライマリ・ヘルスケア, 6, 697.
 生涯教育, 7, 817.
 マンパワーの養成, 8, 937.
 中間施設, 9, 1057.

POSをナースに：中木高夫

ナースはまじめだから、本に書いてあるとおりに実践し
 なければならないと思ってしまう, 10, 1177.
 POSとは‘プロブレムごと’に’ということ。これだけは頭
 に入れてほしい, 11, 1297.
 データベースを考えるとときの合言葉。‘看護のためのデ
 ータベース’[1], 12, 1417.

老人ホームの訓練室から——極楽寺山通信： 三好春樹

介助の〈介〉——介入の〈介〉か、媒介の〈介〉か?, 1, 93.
 介助は老人の自立のために, 2, 123.
 生活の場ならではの方法論をめざして——S.K.さんの
 ナースコール〈上〉, 3, 333.
 生活の場ならではの方法論をめざして——S.K.さんの
 ナースコール〈下〉, 4, 453.

リハビリテーションQ&A

長期療養児の問題：萩島秀男・星川伸子, 1, 97.
 環境の変化と子供の健康：萩島秀男・星川伸子, 2, 217.
 この10年間の進歩：萩島秀男・渋谷美枝・近藤光子,
 3, 337.

バイオエシックスセミナー：木村利人

看護の未来のために, 1, 101.

ここまできた日本の医療

癌のレーザー療法——早田義博・東京医科大学教授に聞
 く, 1, 4.
 超音波による胎児診断——小林充尚・防衛医科大学校教
 授に聞く, 2, 124.
 顕微鏡下での白内障嚢内超音波乳化吸引法——原眼科病
 院における試み, 3, 244.
 MRI(磁気共鳴画像)診断——飯尾正宏・東京大学医学
 部教授に聞く, 4, 364.

経皮的腎結石抽出術——秋元成太・日本医科大学教授に聞く, 5, 484.

二重濾過血漿分離交換法——阿岸鉄三・東京女子医科大学教授に聞く, 6, 604.

骨肉腫の患肢温存療法——立石昭夫・帝京大学教授に聞く, 7, 724.

コンピュータド・ラジオグラフィー (CR)——蜂屋順一・杏林大学助教授に聞く, 8, 844.

腎臓移植, 9, 964.

小児の自家骨髄移植——西平浩一・神奈川県立こども医療センター小児科部長に聞く, 10, 1084.

乳癌の縮小手術——平出星夫・防衛医大講師に聞く, 11, 1204.

マイクロサージェリーによる卵管形成術——藤井明和・東海大学医学部教授に聞く, 12, 1324.

プライマリ・ナーシング:

聖路加国際病院看護部プロジェクトチーム

なぜプライマリ・ナーシングなのか?——聖路加国際病院がプライマリ・ナーシングの導入を検討する理由, 1, 10.

プライマリ・ナーシングとは[1], 2, 130.

プライマリ・ナーシングとは[2]——プライマリ・ナースの働き, 3, 250.

日本でプライマリ・ナースを育てるにはナース自身にどんな準備が必要かしら, 4, 370.

プライマリ・ナーシングを導入するには看護部の組織をどのようにしたらよいのかしら, 5, 490.

プライマリ・ナーシングではヘッドナースの責任はどう変わるのかしら, 6, 610.

プライマリ・ナーシングは果たしてお金がかかるのかしら, 7, 730.

プライマリ・ナーシングを行なうには, どんな勤務時間でどのように組まれればいいのかしら, 8, 850.

プライマリ・ナーシングは患者さんにどんな利益と不利益があるのかしら, 9, 970.

プライマリ・ナーシングをしたらナースにとってどんな利益と不利益があるのかしら, 10, 1090.

プライマリ・ナーシングを導入しようとするどんな抵抗が予想されるのかしら, 11, 1210.

プライマリ・ナーシングを導入していくための当院でのプランニング, 12, 1330.

CHECK IT UP——日常ケアを見直そう:

看護ケア再検討グループ

バイタルサイン[1]——〈はかる〉ことの意味を問い直してみよう, 1, 12.

バイタルサイン[2]——バイタルサインはナースの親友, 2, 132.

プライバシー尊重していますか?——患者さんのプライバシー, 3, 252.

睡眠——眠れる夜のために, 4, 372.

療養環境——生活の場としての目配りを, 5, 492.

外来看護——病院の“顔”外来を考える, 6, 612.

検査——検査から患者を守りきれるか, 7, 732.

管理のための〈重症〉から看護のための〈重症〉へ, 8, 852.

在宅ケア——待ち望まれる訪問看護を行なうために, 9, 972.

終末期のケア[1]——医療技術の進歩がもたらした現代のカオス, 10, 1090.

終末期のケア[2]——安らかな終末を望むのは贅沢なのだろうか, 11, 1212.

入退院時のオリエンテーション——チェックリストで安心しないで!, 12, 1332.

インフォメーション——

新しいナーシングケアのために

じん肺症: 斎藤健一, 1, 23.

培養皮膚: 吉里勝利, 2, 143.

絶食療法: 山内祐一, 3, 263.

AIDS: 宮坂信之, 4, 383.

悲嘆過程: 稲永和豊, 5, 503.

行動療法: 山上敏子, 6, 623.

生体エネルギー法: 野田雄三, 7, 835.

腫瘍マーカー: 渡辺直樹・漆崎一朗, 8, 957.

サイクロスボリン A: 柏原英彦, 9, 983.

エリクリンの自我発達段階説: 田中一彦, 10, 1103.

老人保健法: 竹内孝仁, 11, 1224.

習慣病: 中野正孝, 12, 1344.

NURSES' VIEW

患者は一人一人別である: 関文子, 1, 25.

なぜ脳神経外科看護研究会を続けるのか: 岡田康子, 2, 145.

看護療法の開発——看護サービスの多様化に向けての提言: 早川和生, 3, 265.

ユニークな楽しい発想: 高津貴美子, 4, 385.

‘ホスピスからのレポート’を読んで: 岩井隆子, 5, 505.

‘助けて, 楽にして’という声が伝わってくる: 松井一枝, 6, 625.

看護婦に期待することをやめました——父の病を通して: 藤井皆子, 7, 745.

弱者と強者: 稲見民江, 8, 865.

‘看護婦さん, 私はこれ以上生きなくてもいいです’: 池知智津子, 9, 985.

‘歩きたい’という言葉から学ぶもの: 河野美穂子, 10, 1105.

私は卵巣癌, ステージⅢ: 深川理和子, 11, 1225.

満ち足りて死を迎えるために——患者の内面を支える看護を: 小島迪子, 12, 1345.

グラフ

生命と向き合う日々——杏林大学医学部付属病院救命救急センターの1日, 1, 16.

‘看護婦さん, 待ってったが’——心筋梗塞を繰り返している患者への訪問看護, 2, 136.

心温かな家庭生活の延長を——特別養護老人ホーム〈やすらぎの園〉, 3, 256.

1日19時間を生きる人たちのために——名古屋・新生

会第一病院の透析医療にみる看護の発展, 4, 376.
‘私たちは無力です。回復の力は患者さん自身にありますね’——アルコール依存症・薬物依存症専門病院せりがや園での看護, 5, 496.
‘楽しくなくっちゃ入院じゃない’——みさと健和病院4階病棟の“お花見会”, 6, 616.
‘明日は沢山の人が死ぬだろう’——エチオピアの干ばつ地域での緊急医療・看護活動, 7, 736.
患者自立への援助——国立療養所村山病院の‘気づき、見守り、声かけの看護’, 8, 856.
昭和60年度日本看護協会通常総会開催, 8, 862.
第18回ICNイスラエル大会開かれる——1985.6.16-20 テルアビブ, 9, 976.

Nurses in a New York Hospital——ベス・イスラエル・メディカル・センターを垣間見て：ワット隆子, 10, 1096.

‘自分の意思が伝わらない’それは大変つらいことです——一口話法を中心にしたコミュニケーション, 11, 1216.
民間病院の総婦長として看護の可能生に賭ける——小張病院総婦長・長谷川美津子さんの1日を追う, 12, 1336.

教育婦長

鳥屋尾育子さん——島根県立中央病院看護部次長, 1, 1.
加藤尚美さん——武蔵野赤十字病院看護副部長, 2, 121.
山崎満喜子さん——国立療養所志布志病院, 3, 241.
三内美子さん——鳥取大学医学部付属病院副看護部長, 4, 361.
津田充子さん——自治医科大学部付属病院, 5, 481.
内山照子さん——豊橋市民病院副総婦長, 6, 601.
上田幸子さん——鳴戸病院副総看護婦長, 7, 721.
梅原恭子さん——津軽保健生活協同組合健生病院, 8, 841.
石谷幸子さん——永生病院(香川県)総婦長, 9, 961.
藤崎民子さん——兵庫県立尼ヶ崎病院看護部長, 10, 1081.
森田里さん——東京慈恵会医科大学付属病院副総婦長, 11, 1201.
吉井良子さん——聖路加国際病院, 12, 1321.

ちょっと一言——総婦長のつぶやき

新前看護部長グッンバル!!：酒見邦子, 2, 201.
たと言葉は通じなくても：神郡博, 3, 321.
人形に魅せられて：渡邊富子, 4, 475.
1960, Fresh Nurse in OKINAWA：備瀬信子, 5, 561.
私と茶の湯との出会い：田淵桃代, 6, 687.
趣味の程度：武藤美知, 7, 834.
転勤後半、ほっと一息して周囲を見渡せば：内藤静江, 8, 921.
人々に気づいてほしい看護職の重要性：阿部寿満子, 10, 1161.
いま、私たちは燃えています：西山和子, 11, 1281.
あるがままに：斎藤カツ子, 12, 1408.

南の島での保健医療——

インドネシアで保健婦として働いて：塚本香代美
近くて遠い島、スラウエシ島, 1, 109.

相手があるがままに受け入れる, 2, 229.
村の生活, 3, 349.
分かるまで時間がかかる, 4, 469.
インドネシアの保健サービス, 5, 589.
Kader：地域保健開発推進員, 6, 709.
婦人組織と活動, 7, 829.
インドネシアの看護事情[1], 8, 949.
インドネシアの看護事情[2], 9, 1069.
自分自身の入院, 10, 1189.
宗教とのかかわり, 11, 1309.
海外医療協力のすすめ, 12, 1429.

子供たちの痛み——

指導相談科からのお便り：中村元子

ひどい話, 1, 113.
おもしろから……, 2, 233.
電話相談は世の鏡, 3, 353.
横綱級の偏食, 4, 473.
母の味と袋の味, 5, 593.
保育園での相談業務, 6, 713.
小型北の湖も引退した, 7, 833.
親の都合, 8, 953.
低出生体重児の親, 9, 1073.
ペットにご用心, 10, 1193.
先天性股関節脱臼, 11, 1313.
子供だけを見てはいけない, 12, 1433.

プロフィール

〈加藤奈智子〉教務から臨床へ20年ぶりのカムバック——適材・適所もあるけれど、どこでも楽しんで仕事をしてしまう人がいるものだ, 1, 105.
〈早川和生〉看護療法の確立を目指す——看護者にしかできないセラビーがあるはず, 2, 225.
〈ソニアマリア・トクナガ〉ブラジルからの看護研修生——日本のナースが患者さんになっていることのすべてが勉強になりました, 3, 345.
〈伊藤久江〉産業保健婦の教育に情熱を注ぐ——‘最近やっとな、人間中心の健康管理がされるようになったのは’, 4, 465.
〈李瑛〉上海市第1人民病院の看護婦さん——‘ナースコールはとても便利、何が患者さんの問題かすぐ分かります’, 5, 585.
〈岩本美知〉法学部学生から再び臨床へ——‘一番大きな収穫は、新しい世界の人を知ったことです’, 6, 705.
〈箕輪尚子〉会社の健康管理室で精神相談20年——‘私たちとの話し合いの中から立ち直っていく人も多いですね’, 7, 825.
〈二瓶澄子〉寿町診療所の看護婦として6年——‘もう治ったよ、あん時ありがとね’なんて言われるとうれしいですね, 8, 945.
〈矢島和江〉インドで入院し日本の看護を考える——‘患者さんとゆっくり話せる、あれだけの余裕がほしいですね’, 9, 1065.
〈中沢秀子〉大学を卒業し看護学校へ——‘必要なのは

っとそばにいる人、看護婦だと思いました', 10, 1185.
〈小林美智子〉院内自主研修セミナーの世話役——‘お調子に乗っている時セミナーで指摘されハッとします’, 11, 1305.
〈西島寿賀子〉ガンの電話相談員——‘言葉でもってする看護の大切さを知りました’, 12, 1425.

BOOK REVIEW

コード・ブルー—緊急蘇生処置 (バーバラ・ハットマン 著, 中島みち訳) : 澤谷典子, 1, 110.
電話の中の思春期—語り合う性 (安達倭雅子著) : 藤原美幸, 1, 111.
新刊紹介／‘対症看護 = 小児編—病態生理とプライマリ・ケア’‘ちゃぼとひよこ—練馬障害児をもつ親の会の記録’, 1, 112.
やさしき長距離ランナーたち (山崎摩耶著) : 榛葉由枝, 2, 230.
透析患者の看護 第2版 (柴垣昌功編) : 上田代恵子, 2, 231.
新刊紹介／‘ホスピスケア—看取りの医療への提言’‘高齢者の健康と保健活動—公衆衛生実践シリーズ・5’, 2, 232.
ICU呼吸と循環の管理—第2版 (J. M. Neutze ほか著, 島田康弘・田中一彦訳) : 原田和子, 3, 350.
たたかいはいのち果てるまで—医師中新井邦夫の愛の実践 (向井承子著) : 田中靖代, 3, 351.
新刊紹介／‘痛みのパズル’‘脊髄損傷マニュアル—リハビリテーション・マネージメント’, 3, 352.
ベッドサイドの老人ケア—‘手ぶら’の看護を求めて (五島シズ・三浦規・本間昭編) : 八代明子, 4, 470.
続看護婦物語 (江川晴著) : 人見喜代子, 4, 471.
新刊紹介／‘ナーシング・リサーチ—看護研究, その目的・手順・評価’‘病院精神医療を超えて—精神科看護のひとつの試み’, 4, 472.
手術室看護の実際 (Lois C. Crooks 編, 小島操子監訳) : 木下邦子, 5, 590.
今日はすべて (吉岡昭子著) : 中村省子, 5, 591.
新刊紹介／‘薬の相互作用と副作用—薬理学の基礎知識と臨床設問’‘島の四季—志樹逸馬詩集’, 5, 592.
ストーリーケア—オストメイトへの理解と援助 (阪本恵子著) : 門根道枝, 6, 710.
近代日本看護史—II. 戦争と看護 (亀山美知子著) : 新見友季子, 6, 711.
新刊紹介／‘夕暮れになっても光はある—特養寮母の看護絵日記’‘患者・家族への援助と看護婦の役割’, 6, 712.
脳卒中リハビリ日記 (横田整三著) : 本村節子, 7, 830.
試験管ベビーを考える (斎藤隆雄著) : 佐藤治代, 7, 831.
新刊紹介／‘リハビリテーション基本手技’‘森の叫び—精神病者の詩魂と夢想’, 7, 832.
CHECK it UP ①—日常ケアを見直そう (日常ケア研究会編集) : 近森芙美子, 8, 950.
お年寄りと暮らす (阿部初枝著) : 佐藤幸子, 8, 951.
新刊紹介／‘在宅末期癌患者のケア’‘娘たちの戦争’, 8,

952.

脳死と臓器移植——いのち最先端 (読売新聞社解説部編 著) : 青木芳子, 9, 1070.
看護診断マニュアル (Marjory Gordon 著, 草刈淳子ほか訳) : 井部俊子, 9, 1071.
新刊紹介／‘援助と科学の技術’‘いのち尽きる人とともに—記録・保健婦われら, いま’, 9, 1072.
文化としての妊娠中絶 (マルコム・ポッツほか著, 池上千寿子・根岸悦子訳) : 藤原美幸, 10, 1190.
性教育学講座—人間の性とは何か (ミルトン・ダイアモンドほか著, 田草川まゆみ訳) : 前川厚子, 10, 1191.
新刊紹介／‘透析ハンドブック—よりよい自主管理透析のために’‘神経性食思不振症—その病態と治療’, 10, 1192.
嗜癖行動と家族—過食症, アルコール依存症からの回復 (斎藤学著) : 森田和子, 11, 1310.
痴呆老人の理解とケア (室伏君士編) : 片岡万里, 11, 1311.
新刊紹介／‘家庭看護読本—老人とともに暮らす知恵’‘看護場面におけるリーダーシップとマネージメント’, 11, 1312.
目で見える患者援助の基本第2版 (川島みどり著) : 寺島敏子, 12, 1430.
クシュラの奇跡—140冊の絵本との日々 (ドロシー・バトラ著, 百々佑利子訳) : 中井ゆふ, 12, 1431.
医の倫理—新医療時代の〈生と死〉 (阿南成一著) : 飯田加奈子, 12, 1432.

NEWS

第25回母性衛生学会学術集会／第15回日本看護学会母性看護分科会／東京看護学セミナー20周年記念講演会, 1, 114.
慈恵看護教育100年記念式典／第39回国立病院療養所総合医学会／昭和59年度東海北陸地区 (北陸) 看護研究学会, 1, 115.
第15回日本看護学会看護総合分科会／第15回日本看護学会地域看護分科会／第8回死の臨床研究会, 2, 234.
第4回日本看護科学学会／‘患者の権利宣言’全国大会, 3, 345.
昭和59年度東海北陸地区 (東海) 看護研究学会／第4回関東甲信越地区看護研究学会／昭和59年度九州地区看護研究学会, 3, 355.
第17回聖路加看護大学公開講座／昭和59年度日看協近畿地区看護研究学会／第7回POS研究会, 5, 594.
東海大学医学部10周年記念‘訪問看護’公開シンポジウム／‘在宅ケアへの歩み’シンポジウムと市民の声を聞く会／ドキュメンタリー映画‘中絶—北と南の女たち’試写会, 6, 714.
キューブラー・ロス来日——第9回トランスパーソナル国際会議のスピーカーとして／日本人間工学会第26回大会／第9回看護を考える市民と看護婦の集い, 8, 956.
第10回記念日本精神科看護技術協会総会・学会／第6回東京ホームケア研究会・公開研究会／第16回日本看護学会成人看護分科会, 9, 1077.
第16回日本看護学会成人看護分科会 (福岡)／第7回難

病看護研究会／昭和60年日看協北海道・東北地区看護研究学会，10，1197.

第4回日本思春期学会学術講演会／バイオエシックス研修セミナー／第7回全国地域リハビリテーション研究会，11，1314.

第16回日本看護学会成人看護分科会(兵庫)／第16回日本看護学会看護教育分科会／第11回医療と教育に関する国際セミナー，11，1315.

第35回日本病院学会／第16回日本看護学会地域看護分科会／第16回日本看護学会看護管理分科会，12，1434.

第4回女性による老人問題シンポジウム／‘寝たきりに負けない生活を’開かれる／癌末期患者が東大で講演，12，1435.

SALON

職業人として自己を尽くしたい——本誌8月号‘准看護婦問題に思う’を読んで：桐原紀子，1，116.

学生時代に出会っていたら‘看護史’の講義も違っていただろう——‘写真で見る日本近代看護の歴史’を読んで：今井久美子，1，116.

ふれあいのつれづれに：堺春子・篠田清子，1，117.

乳癌に倒れた友人を思い出します：田中さた，1，119.

自らの手で人権宣言を——2人の看護師の方の意見を讀んで：山本百合子，2，236.

看護者である前に人間であれ：鈴木保，2，236.

看護学校入学資格は高卒以上に：武田登志子，2，238.

彼女は78歳：森岡良子，2，238.

迷い：緒方静子，2，238.

北インドの病院に入院して〔1〕：Yajima Kazue，3，356.

少々疲れてまいりました：笹倉啓，3，358.

緑内症との闘い：渡中美知，4，476.

健康な時には見えなかった心が見えた：宮尾井俊子，4，476.

老人看護の‘つぶやき’：池知智津子，4，477.

北インドの病院に入院して〔2〕——ミッション系病院のナースと看護学生：Yajima Kazue，4，478.

今，精神科看護の再考を：伊藤純子，5，596.

良い看護をすることが身を守ることになる：熊本二三江，5，596.

‘身を守る権利’の重要性：鎌田香保子，5，597.

北インドの病院に入院して〔3〕：Yajima Kazue，5，598.

心を病んで分かったこと：伊藤タミ，6，716.

老人看護を現役として：岡村志津英，6，717.

看護への反省：綱木鶴野，6，718.

たゆまなく語り合うこと：野村光子，6，719.

個人病院の現場から：熊本二三江，7，836.

‘バイオエシックス・セミナー’の連載に感激する：桐原紀子，7，837.

看護のプロであってほしい：武久一世，7，837.

透析を受けながら移植を待つ患者たち：吉田冬子，7，838.

今まで看護婦のいなかった会社：荒川みつ子，7，839.

K氏の自殺は正しかったのか：三枝広雄，8，958.

「学生さん，いつまでも何してるの」と言われて：佐藤

千恵子，8，959.

学生の発想は現実離れしていないか：吉田武豊，9，1078.

私は悲しい——7月号〈NURSES' VIEW〉‘看護婦に期待することをやめました’を読んで：松井一枝，9，1078.

胸をしめつけられる思いで読んだ——5月号特集〈疾病としてのアルコール依存症〉：K.Y.，9，1079.

看護とは，なんとすばらしく，抜け目のない仕事なのでしょ：北野けい子，11，1316.

実習指導者としての私を支えてくれたもの：石松富佐子，11，1317.

3年間の実習を通し，やっとたどりついた小さな気づき：木下圭子，11，1318.

‘夫の協力を得る’は難しい：河田和夫，12，1436.

食後の入浴は不可能？——本誌9月号，吉田氏の意見を讀んで：大矢富士雄，12，1436.

‘病は気から’を逆手にとって——旧友N君の闘病に学ぶ：柳瀬敏幸，12，1437.

REPORT

安全なセックスとは何か〔1〕——25種をこえる性的感染症(STD)のまん延におびえるアメリカ社会：池上千寿子，9，1074.

安全なセックスとは何か〔2〕——25種をこえる性的感染症(STD)のまん延におびえるアメリカ社会：池上千寿子，10，1194.

世界のナースたちとの5日間——第18回ICNイスラエル大会に参加して：田代順子，10，1198.

TOPICS

医師と患者の対話集会‘乳癌に勝つ’開かれる——対話を通して相互理解を深める，2，235.

第4回医療情報学連合大会，4，474.

第2回地域保健セミナー開かれる，5，595.

誤ったまま生きることの正しさ——The Right to be Wrong:Lois Cross. 訳／本誌，6，662.

朝日新聞・大阪厚生文化事業団主催シンポジウム‘寝たきり老人と介護’開かれる，6，715.

〈最後のタブー〉への挑戦—親と子の性関係——ハワイで開かれた子供への性的虐待を考えるセミナー，8，954.

フローレンス・ナイチンゲール生誕記念——高校生の1日看護婦，8，955.

‘85国際モダンホスピタルショウ開かれる——注目を集めた〈ホームケア・コーナー〉，9，982.

〈老いの復権〉を目指して——三好春樹氏による‘老人の生活リハビリ講座’が開講，10，1102.

看護学生のためのやんやんサマープラクティス開かれる，11，1222.

海外の看護事情研修会開かれる——老人看護・老人福祉をテーマに：北村愛子，11，1280.

〈老人の生活ケアセミナー〉開かれる，12，1342.

海外の新刊から／入院患者必携引きき書——TAKE THIS BOOK TO THE HOSPITAL WITH YOU：ワット隆子，12，1406.